

# 牧之原市立図書館基本計画 実施状況

第1回図書館協議会資料3

## 1 くらしを支える専門サービス 【資料の充実と専門職員の配置】

No.	基本計画	令和3年8月時点 実施状況	今後の取組方針
1	資料収集方針の見直し	「資料収集方針」「資料選定基準」「資料除籍基準」「寄贈資料受入基準」等に基づき、年間選書計画をたて効率的に資料を増やしていく。	新たに図書館を利用した人たちが多く、その利用の傾向等を分析することでより効率的な資料を収集していく。
2	くらしに役立つ蔵書の増加	令和2年度に大幅に資料を購入し、現在は約83,000冊の所蔵となった。今年度さらに2,400冊程度購入する見込み。また、市民等へ寄贈の呼びかけを行い、蔵書増につなげていく。	市基本計画で3館合計11万冊を目標としており、その数字に近づけていく。一方で、図書館の資料として適さない、情報の古い資料等は適宜除籍していく。
3	学校や他の図書館との連携	小学校から見学の依頼が旧図書館以上にきており、ふるさと科の単元で、いこつについて通年の授業で取り上げているクラスもある。また、学校司書連絡会でいこつとの見学も行った。	今年度中に、静岡県図書館横断検索に加入する予定。
4	児童向けサービスのさらなる充実	子育て支援センター等と連携し、いこつを会場として見学や読み聞かせを実施している。	学校教育、子育て等の部署と連携して「子ども読書活動推進計画」の見直しを進めていく。
5	発見・驚きのある講座やイベントの開催	コロナ禍の中で、密に注意しながらウォーリーやジェードのイベントを実施中。また、館内の本の特集展示を複数、月替わりで入れ替えている。	新型コロナウイルスの感染状況等を注視しながら、今まで館内でできなかったイベントの開催について検討していく。
6	市民を支えるレファレンスサービスの充実	利用者が図書館で調べものする際に回答をできるよう、情報の古い資料の買い直しを進め、参考資料数の底上げをした。	窓口での対応方法に個人差がでないように職員間の情報共有やスキルアップに努めていく。
7	移動図書館の運行と改善	昨年度まで53ステーションあったものを、より効率的な運行を目指して31ステーションに集約し、利用が伸びている。	各ステーションごとの貸出数が把握できるようになったので、利用のされ方等を分析し、さらに伸ばしていく。
8	図書ボランティアへの支援	旧相良図書館をボランティアの打合わせ等に使える部屋として開放している。	読み聞かせ用の大型制作物の貸出方法が煩雑であるため、手続きを簡略化できるよう検討する。
9	質の高い職員研修の実施	4月のオープンに向け、職員間でマニュアルの共有を行った。日々の連絡事項は毎日朝礼を行い、漏れのないようにしている。また、県の主催する運営研修に参加した。	11月に県の主催する、資料保存研修に参加する予定。今後も外部研修へ参加し、スキルアップに努め、館内での情報共有につなげていく。
10	専門的サービスを保障する人員体制の確保	図書係を設置し、来館者増に備えて増員。職員は図書交流館、榛原図書館、移動図書館を臨機応変に動いて利用者対応している。	図書交流館では予測よりも来館者が多く、窓口以外の業務が滞っているため、業務の効率化を図っていく。

## 2 であいを創る交流・憩いの場 【環境の整備とスペースの確保】

No.	基本計画	令和3年8月時点 実施状況	今後の取組
1	ユニバーサルデザインの推進	図書交流館は館内に段差がないようにし、通路幅も車イスが通れるよう広さも確保した。窓口には拡大鏡や筆談ボード等を設置し、利用困難者へ配慮。	榛原図書館は今後整備を検討する中でユニバーサルデザインを進めていく。点字や音読の福祉資料は、市外の図書館から借りられるよう準備中。

2	居心地のよい閲覧スペース	図書交流館では書棚のボリュームを抑えた分、閲覧席を多くすることで利用者が空間を広く使える工夫をしている。	榛原図書館は座席数が16と少ないため、今後の整備計画の中でスペースの確保を検討する。
3	親子で楽しめる読み聞かせスペース	図書交流館の読み聞かせスペースは家族連れの利用がよく見られる。榛原文化センターの「こころね」はコロナウイルスの拡大のため休止している。	コロナウイルスの状況にもよるが、将来的には読み聞かせスペースでボランティアや職員によりおはなし会を開催できるよう検討する。
4	自分と向き合う学習スペース	図書交流館に、静かに読書や勉強ができる学習室を設置した。席のすべてにくもりガラスのパーテーションをつけ、プライバシーにも配慮。榛原文化センターの学習室は休止している。	榛原図書館の利用者にもサービスを提供するため、スペースの確保について検討する。
5	であいを創る交流スペース	図書交流館の交流・談話エリアでは、家族や友人での利用だけでなく、自分のパソコンを持ち込んでワーキングスペースのように使う利用者もいる。榛原文化センターの「こころね」は現在休止中。	榛原図書館の利用者にもサービスを提供するため、スペースの確保について検討する。
6	ボランティア活動スペース	相良図書館をボランティアの打合せや練習に使えるスペースとして開放している。	榛原図書館でのボランティア活動ができる場所について、今後の拡充計画の中で検討する。
7	資料を保存する書庫スペース	図書交流館内に約4,000冊収蔵可能な書庫を設置し、旧相良図書館も閉架書庫として活用している。	榛原図書館に約10,000冊の書庫があるが空き容量がなく、今後の拡充計画の中で検討する。
8	作業しやすい事務スペース	図書交流館内に、小規模ながら独立した事務室及び作業室を設置した。	榛原図書館には事務室がないため、今後の拡充計画の中で検討する。

### 3 あなたと図書館をつなぐネットワーク 【図書館システムの構築】

No.	基本計画	令和3年8月時点 実施状況	今後の取組
1	図書館オンラインシステムの導入	図書交流館・榛原図書館・移動図書館の情報を一元的に管理できるシステムを導入した。	図書館職員がシステムに慣れてきたので、今年度中に静岡県横断検索へ加入できるよう準備する。
2	図書館におけるICTの活用	館内OPACだけでなく、図書館HPからも蔵書検索が可能。また、図書交流館にインターネット端末を設置し、利用者の調査研究の補助ができるようにした。	市史料館の収蔵品等も含め郷土資料をデジタルアーカイブ化し、閲覧可能にできる方法を探っていく。
3	多様な広報活動による情報発信	図書館HPや市のLINEやメール以外に、市の観光や産業等、さまざまな情報を集め、利用者へ提供していく。	図書館以外の行政や民間からの情報を効率的に集めていく手法を検討する。
4	返却を容易にするブックポストの設置	ミルクウェイスクエアと榛原文化センターにブックポストを設置し、開館時間外でも都合に合わせて返却可能となった。	市民の要望等を探りながら、返却場所を増やしていくか検討する。
5	資料を届けるメールカーの運行	図書交流館と榛原図書館間を行き来し、返却資料や予約資料の配送をしたり、読み聞かせや移動図書館の混雑する場所への支援のための移動に専用車両を設置した。	小型軽自動車のため荷物はあまり載せられないことと、車両が古いので、専用車両を継続して管理できるように努めていく。